SP2

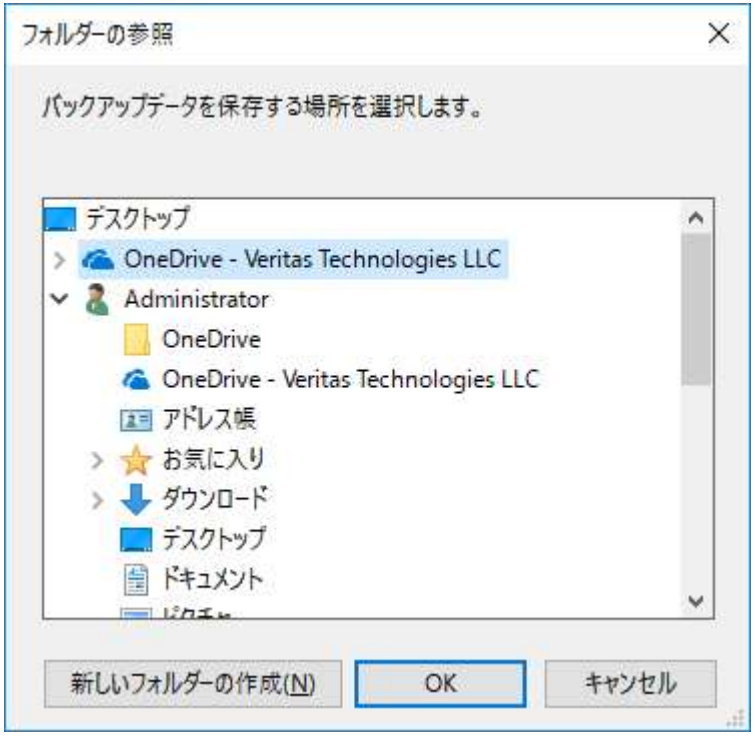
System Recovery 18 SP2の変更点

- Windows Server 2019/Exchange Server 2019
  サポート
- vSphere 6.5 U1/U2, vSphere 6.7 U1のサポート
- SMTP認証のサポート
- Microsoft OneDrive for Businessのサポート
- SRDでデフォルトで「システム」が選択されるようになる（以前はファイル名）
- RAO (Restore Anyware)でUSB 3.0ドライバー対応
- クロスプラットフォーム（BIOS <-> UEFI)の復元を行おうとしたときに対応していないことを通知するメッセージの表示

SP2

Microsoft OneDrive Businessのサポート

– バックアップデータの保存先としてOne Driveフォルダ（オンプレ上）が指定できるようになりました。このフォルダからOne Driveのクラウドフォルダへの同期はOne Driveで行われます。



SP2

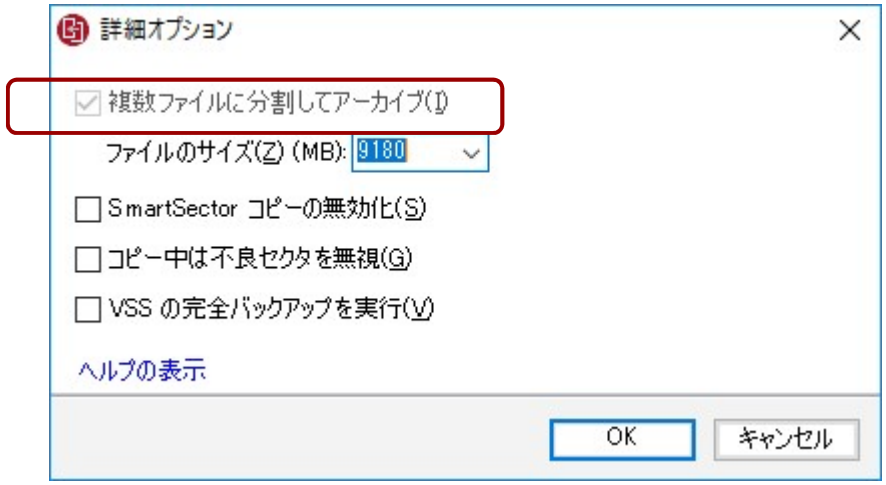
Microsoft OneDrive Businessのサポート

– リカバリポイントのファイルサイズは、10GBまでが上限で、これを超えると分割されて、以下のようなワーニングメッセージが表示されます

SP2

Microsoft OneDrive Businessのサポート

- バックアップファイルのサイズが10GB以下であれば、分割するサイズを指定することもできます（１０GBの制限はMicrosoft OneDriveの制限）



SP2

SMTP認証のサポート

・SMTPの認証と暗号化、両方サポート

・認証の場合、匿名、ベーシック、NTLMが選べる

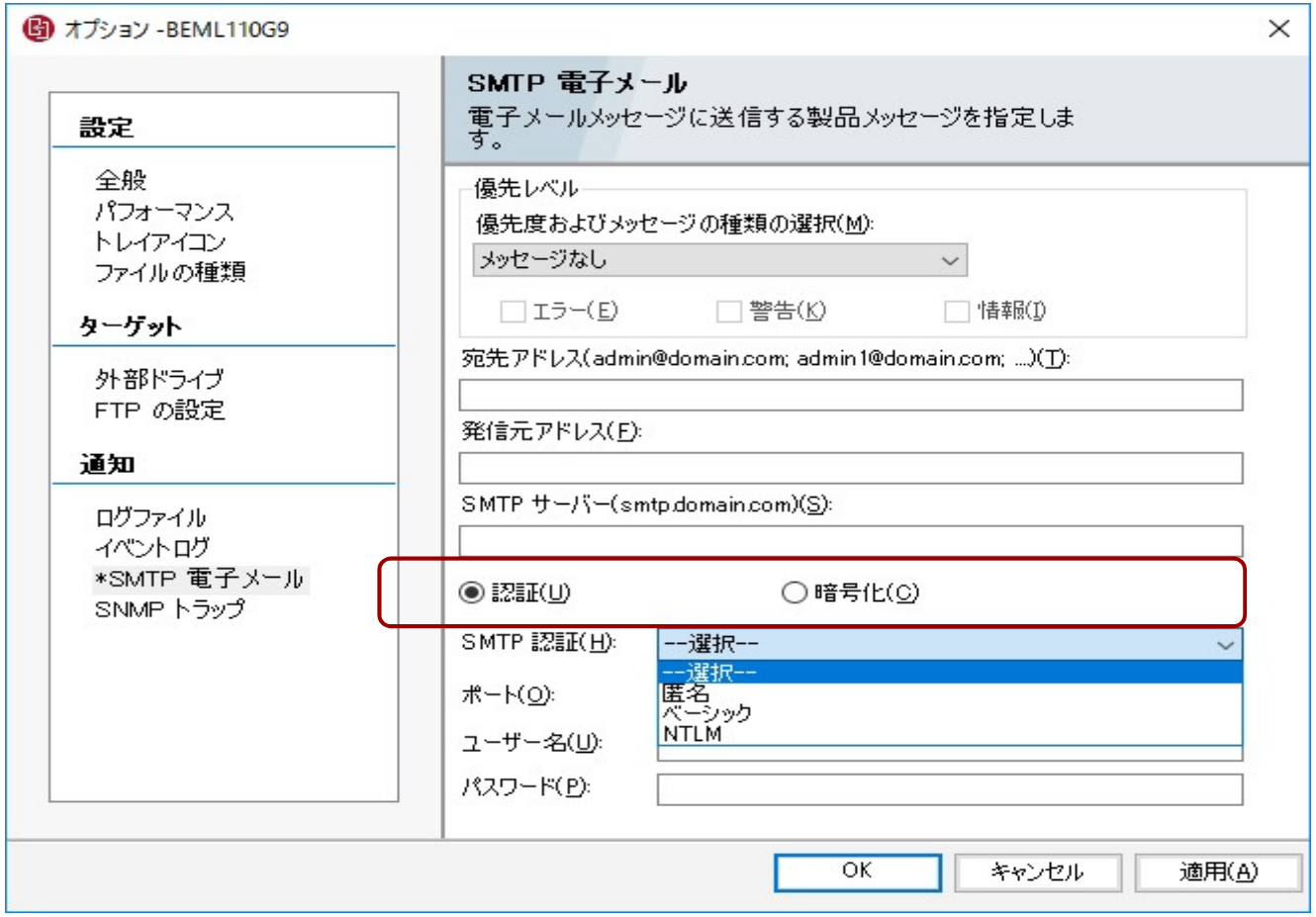
・認証にチェックを入れると、ポート番号も指定できる

・暗号化の場合、無し、TSL、SSLが選べる

VERITAS

SP2

SMTP認証のサポート



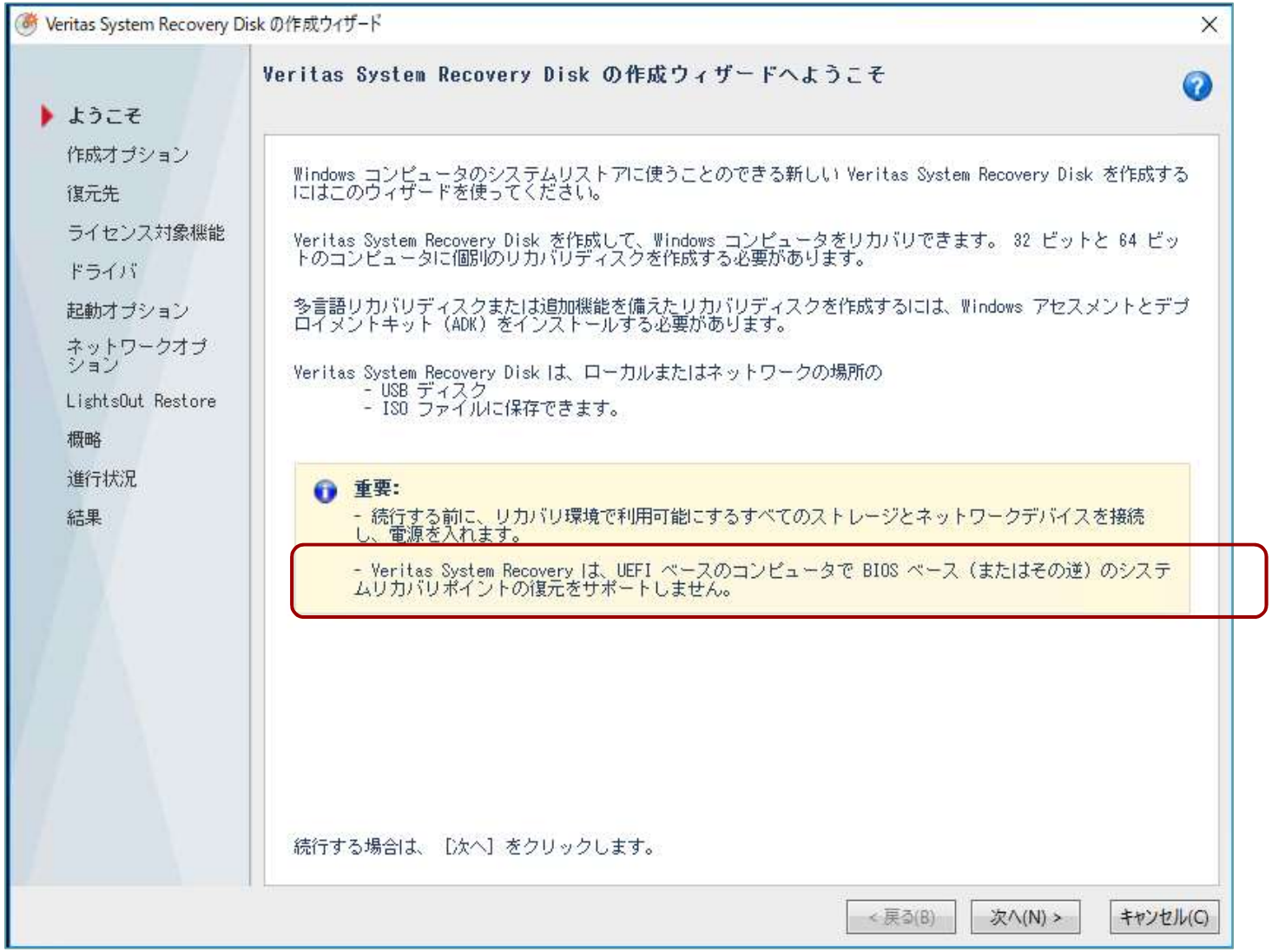
SP2

クロスプラットフォームの復元時のメッセージ

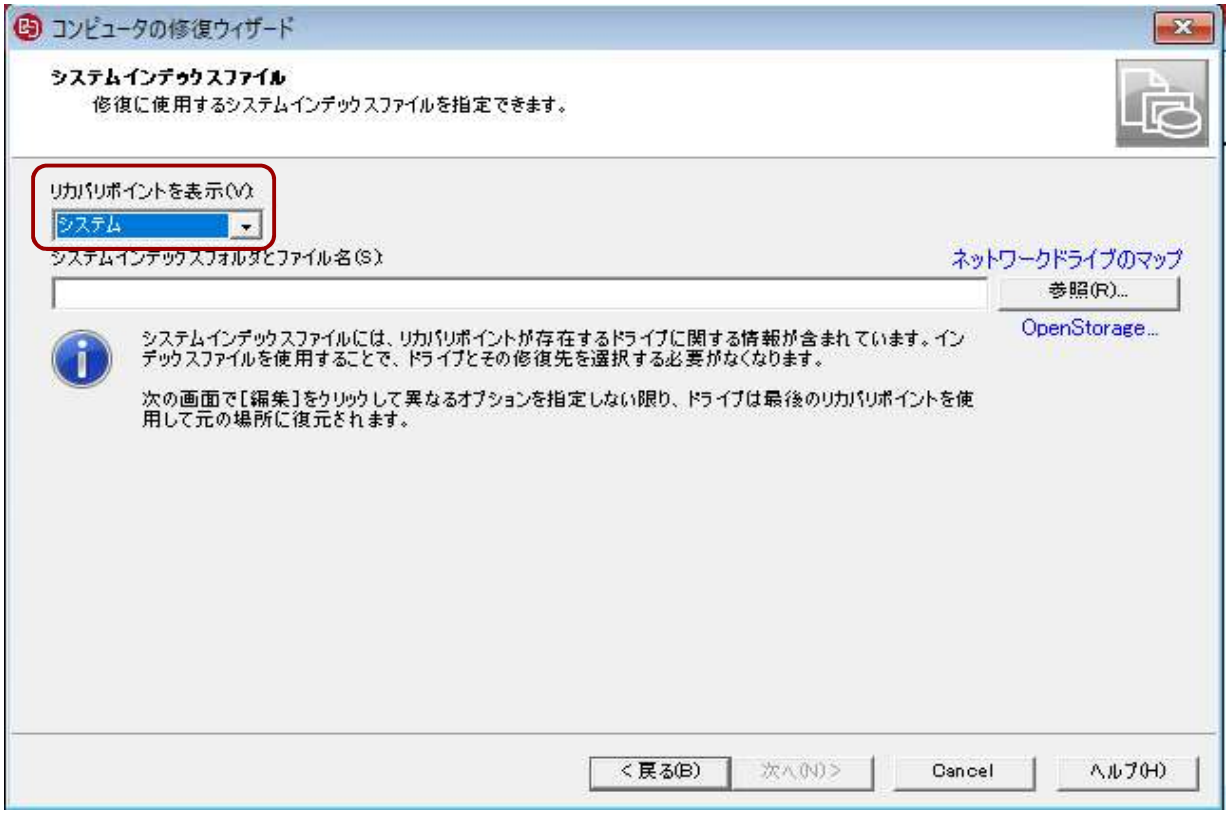
クロスプラットフォーム（BIOS＜－＞UEFI）の復元ができないことを伝えるメッセージが表示されるようになりました

SP2

SRD作成ウィザード



SP2

SYSTEMがデフォルトで選択される

SRDでデフォルトで「システム」が選択されるように変更する（以前はファイル名)